



病院NEWS

no.
358
2014
04/01



The Hospital News.Faculty of Medicine Kagawa University



ささえる、つながる、リードする。
香川大学医学部附属病院
KAGAWA UNIVERSITY HOSPITAL

香川県木田郡三木町池戸1750-1 発行人/病院長 横見瀬 裕保

新病院長就任挨拶

病院長 横見瀬 裕保



最新、最良の治療を安全に提供

平成26年4月より第9代病院長を拝命しました。香川大学医学部附属病院は昨年開院30周年を迎え、少しずつ歴史と実績を積んできました。これからの10年、「ささえる、つながる、リードする。」というキャッチフレーズのもと、地域の皆さんのニーズに的確に応えなければなりません。県下唯一の大学病院の使命は、最新、最良の治療を安心、安全に提供することです。そのために、現在病院の再開発が進んでいます。患者さん、医療スタッフ等多くの方々にご迷惑をおかけしていますが、本病院が新しく生まれ変わるためには避けて

通れない道筋ですので、しばらくご容赦ください。本年7月には新造となった南病棟が稼働します。これは患者さんに快適な療養環境を提供するとともに、県民から最も要望されていた救急医療、癌診療を充実するためです。

新病棟1階は全フロアーが救命救急センターとなります。救急玄関、初療室、CT、MRI、血管造影施設、病室が直結した機動性の高いセンターです。また現在新造中のヘリポート、大容量の自家発電施設とともに、小高い丘陵地にある本センターは大震災、津波に対する地域防災医療の砦となるべく設計されています。新病棟3階は心臓血管センターになります。最新のCT、血管造影施設を1階に備え、患者さんをいつでも治したい熱い心を持った循環器内科医、循環器外科医が最高の技術で治療します。

最新、最良の癌治療のためには優秀な人材は勿論ですが、最高の機器が必要となります。現在、悪性腫瘍の診断・治療効果判定の為に必須であるPET装置は平成14年に中四国で最も早く導入されています。平成22年からはさらに優れた画像を提供するPET/CTが導入され、実績と経験の積み重ねが最良の癌診断を支えています。患者さんの副作用を最小限に抑え、ピンポイントに癌の根治を目指す最新の放射線治療装置が導入されます。強度変調放射線治療(IMRT)、画像誘導放射線治療(IGRT)が可能となり“患者さんにやさしい癌治療”に貢献します。昨年、手術支援ロボット“ダ・ヴィンチ”を導入し泌尿器科領域で診療開始しました。呼吸器外科、消化器外科、心臓外科、婦人科領域での使用適応拡大を検討しています。

我が国の財政が厳しい中、最新の設備を備えた新手術棟の新造が予算化され、今年から工事が始まります。ダ・ヴィンチ手術室、血管造影可能なハイブリッド手術室、MRI可能なナビゲーション手術室を備えます。我々の外科部門が財務省から認められた結果と考えています。現在手術室は10室でこれ以上の手術数の増加は物理的に不可能な状態となっています。今回の再開発で手術室は12室となる予定であり、手術数の増加により地域医療にさらに大きく貢献できると考えています。また外来手術、日帰り手術を積極的に行うことにより患者さんのニーズに応えます。

大学附属病院だからこそできることは、新しい医療人の継続的な供給と新しい治療法の開発です。本大学を卒業した医師、看護師が香川県の地域医療に貢献できるようにハード・ソフトにわたる環境整備を行ってきました。これからも若い医療人の研修、教育を充実させていきます。先端医療開発センターでは研究レベルの新しいシーズをくみ上げ、臨床応用可能な治療にするためのハード・ソフトの整備を行っていきます。

厳しい病気を持っておられる患者さんに希望の芽を差し出すことのできる、患者さんに夢を与えることが出来るよう努めますので、皆様のご理解、ご指導をお願いいたします。



平成26年3月1日付けをもちまして香川大学眼科学講座教授として着任いたしました。この場を借りてご挨拶申し上げます。白神史雄前教授が培ってこられた臨床力を更に発展させ、地域の医療に貢献できるように努めさせていただきます。最新のエビデンスに基づいた標準化された治療を行うとともに、患者さん一人一人に最適の治療（個別化医療）を提供することを目指します。患者さんの意向を充分にくみ取りながら、患者さんを中心とした医療を実践し、患者さんに喜ばれる医療を提供していきたいと考えています。

私は平成5年に京都大学医学部を卒業後、同大学眼科に入局致しました。同大学で1年間、その後、倉敷中央病院で2年間研修を行いました。平成8年に京都大学大学院医学研究科に入学し、Children's Hospital Bostonへの留学期間を含め、5年間、網膜微小循環に関する基礎研究を行ってきました。大学院修了後は神戸市立中央市民病院（現、神戸市立医療センター中央市民病院）において臨床に取り組み、多くの網膜硝子体疾患の手術を執刀してきました。平成17年からは京都大学にて加齢黄斑変性・網膜静脈閉塞症に対する病態・治療に関する臨床研究を行う一方で、増殖性硝子体網膜症・増殖性糖尿病網膜症などの網膜硝子体疾患に対する外科的な治療を積極的に行ってきました。

——— 加齢黄斑変性という病気 ———

30年くらい前には、本邦では加齢黄斑変性は比較的めずらしい病気でした。しかし、ライフスタイルの欧米化に伴い、現在では本邦での中途失明原因の第4位をしめるに至り、今後一層増加することが見込まれています。加齢黄斑変性は完全に失明に至ることは少ない病気ですが、中心視力が奪われることが多い病気です。見ようとするとところが見えない、人の顔が見えない、本が読めないといった症状を伴います。しかも、約20%の患者さんでは両眼に発症しますので、日常生活に与える影響は計り知れません。

——— 加齢黄斑変性に対する治療 ———

近年、加齢黄斑変性に対する治療は大きく変化しました。私が研修医だった頃、加齢黄斑変性は不治の病気でした。手術治療・放射線治療・レーザー治療など多くの治療が治療は試みられてきましたが、ある程度の視力を残すことが目標でした。現在、ルセンティス・アイリーアなどの抗VEGF薬の注射が治療の中心となっています。このような薬剤が導入されてから、視力予後は格段によくなり、治療によって視力の改善が期待できるようになりました。しかし、繰り返し注射が必要になることが患者さんにとって大きな負担です。病気が一旦落ち着いた後も再発することが多く、そのたびに注射が必要になります。また、再発した場合には早急に治療を行う必要がありますので、こまめな定期受診が必要になり、これも大きな負担になっています。

——— 加齢黄斑変性の今後 ———

加齢黄斑変性の原因は不明ですが、喫煙・食生活・日光などがリスクであることがよく知られています。それ以外に、遺伝的な要素が非常に強い病気であることがわかっています。遺伝子を調べると加齢黄斑変性症になるリスク・両眼に発症するリスク・視力が悪くなるリスクなどがわかってきています。今後、治療に対する反応性が明らかになってくる可能性があります。私は大学ではこのような加齢黄斑変性の病気のメカニズムの解明・よりよい治療方法の確立を目指して研究を行ってきました。香川大学医学部附属病院にも加齢黄斑変性の患者さんが多く受診されています。今後も研究を続け、患者さん一人一人に適した治療を行っていきたいと思っています。



このたび、阪井看護部長の後を受け、看護部長を拝命いたしました。

現在、当院は再開発計画が進行しています。新病棟となる南病棟が開院し、引き続き手術棟の建築と複数年をかけて再開発工事が行われます。病院が変化と進化を迎える時期に身の引き締まる思いがしています。再開発が完了するまでには患者移送、医療機器の移設、物品の移転、そしてそれらの工程に起因する周囲の環境調整と膨大な作業が発生します。看護職員は経験と知恵、組織的な行動力で病棟移転、運営に貢献したいと考えています。

高齢化社会に突入し医療や福祉は大きな転換を求められています。平成26年度の診療報酬改定でも医療機関の機能分化と強化、介護との連携、在宅医療の充実等の方向性が示されました。医療ニーズからは看護職への役割期待は明らかに増大しています。看護職が専門性を高め、安全性を確保しながら役割を果たすためには教育と高度な知識・技術を有する看護職員の定着が重要です。現在、看護部では「一人ひとりがいきいきと輝いて看護するために」特に力を入れて取り組んでいる点があります。看護師の教育として新採用者へのサポート体制や継続教育の充実、キャリアアップの支援を強化するとともに、さらにキャリアを積んだ看護師が健康で安心して働き続けられるようなワーク・ライフバランス重視の職場環境を整備することです。

また、2月の病院機能評価受審でも感じましたが、短期間の準備時間でそれぞれが持てる力を発揮し、非常にチームワークよく連携して、病院機能評価では好評な結果を得ることができました。医療の現場では多くの職種が協働しており質の高い医療を提供するためにチーム医療が欠かせません。共通の目標やゴールを共有し、お互いの専門性を認め、信頼、協力し合える病院を目指したいと思います。

さらに、患者さんやご家族から満足していただける安全で安心な医療と看護の提供、そして看護師が専門職としての自覚と誇りを持ち、働いて良かったと思える職場づくりを目指し日々努力を重ねてまいります。

今後ともご指導ご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

第4回医学生と知事との意見交換会が行われました

地域医療教育支援センター センター長 大森 浩二

平成26年2月28日、地域医療教育支援センターと県の共同主催で恒例の“医学生と香川県知事の意見交換会”が行われました。香川県医務国保課のご協力で、地域医療教育を担当する当センターが発足した22年末度に取り組み、第4回目となる今回は、香川県庁21階の特別会議室をご準備いただきました。香川大学で開発され県が特産品として売り出し中の希少糖入りのお菓子でおもてなしを受け、大学からは森望医学部長、県からは大津佳裕健康福祉部長らが見守る中、浜田恵造知事と医学科生9名、初期臨床研修医1名が、緊張の中にも和やかな雰囲気で行いました。まず、島嶼部の地域医療の話題では、香川県の医師確保施策のひとつである修学金制度により、県から修学金を貸与されている学生から、卒業後の配置について質問がありました。知事からは、修学金制度を利用している学生も自由度は高く、将来、香川の医療への貢献が期待できるのなら、希望に応じて、海外留学も叶うような柔軟な運用を目指したいとの回答がありました。県の医師キャリア支援事業“resident@かがわ”の紹介に対しては、2017年度に始まる新専門医制度との整合性など、具体的な課題を提案する学生もありました。一方、「他県出身だが、香川で働きたい」、「他県で働いていたが、香川で医師として働くため香川大学医学部に再入学した」という決意表明もあり、知事は満足された様子でした。さらに、県の健康政策については、当院に近い三木中学の校医である松原奎一先生が開始した子供達のコレステロール値などの測定が全国的に高く評価されていることもあり、生活習慣病の予防重視の観点から、香川県は、小学4年生の血液検査の支援を開始したことなども紹介されました。

充実した75分間の情報交換会の締めくくりは、知事を囲んでの記念撮影、そして最後に、夜間は一般公開されていない21階展望フロアからの“県都の夜景”を見せていただきました。その遠慮がちな風情は学生達の香川への愛着心を強めるものでした。

香川県肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会

中核病院機能強化支援室



平成26年2月4日(火) 香川県社会福祉総合センターにおいて、県内の肝疾患専門医療機関、香川県医師会、香川県等から組織される委員により、香川県肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会が開催されました。この協議会は香川県における肝炎治療を適切かつ円滑に実施するため年2回開催されています。この日は香川県立中央病院高口議長の進行により、全国の肝疾患診療連携拠点病院間連絡協議会の報告、医療従事者研修会、市民公開講座、「かがわ肝疾患ネットワーク(冊子)」、肝疾患患者の就労に関する総合支援モデル事業等について協議、報告がありました。

大川木田地区認知症疾患医療連携協議会

中核病院機能強化支援室

平成26年2月13日(木)18:00より医学部会議室において、第5回大川地区・木田地区認知症疾患医療連携協議会が開催されました。当院は香川県より認知症疾患医療センターの指定を受けており、センター運営の一環として医療と介護の連携強化を目的に、日頃地域での医療・介護に携わる地域医療機関や地域包括支援センター等の施設から委員の方々にお集まり頂き、年2回開催しています。この日は、当院センターの実績報告、対応困難事例について協議、情報を共有し連携を深めました。



駐車料金の値下げについて

管理課

平成26年4月1日から、お見舞いに来られた方の駐車場の利用料金を次のとおり値下げします。

お見舞いに来られた方で認証機を通した方	
平成26年3月31日まで	平成26年4月1日から
30分無料	1時間無料
30分を超える30分毎に100円	1時間を超える30分毎に100円

臨床研究に関するご案内

医学部倫理委員会委員長 医薬品等臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記URLに示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

●臨床研究に関するご案内URL
<http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~hospital/gairai/rinsyokenkyu.html>

イベントカレンダー H26.4月 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
4/24~27	未定	神戸国際会議場他	第102回日本泌尿器科学会総会 http://www.d-crew.com/102jua/	泌尿器・副腎・ 腎移植外科	(087)891-2202



編集委員会 (50音順)
 石井(看護)、岩瀬(病棟)、岡田(総務)、鬼村(医事)、
 梶川(検査)、加藤(放射線)、白神(麻酔)、濱本(外来)、
 芳地(薬剤)、松本(看護)、安友(管理)、横井(情報)
 [委員長 千田病院長]